

の報告はこれが初めてである。染色体数を確認した個体のさく葉標本 (TUS 15236, TUS 15237, TUS 15241) は東北大学大学院理学研究科生物学教室標本室に保存してある。

1997年春、生育状況を確認のため現地を訪れたところ、開発の波が自生地 of のすぐ近くまで押し寄せ、このままでは絶滅の危機に瀕していることが判明した。自生地の早急な保護

対策が望まれる。

引用文献

- 内野明德 1985. エンレイソウ属植物の花器の変異について. 植物研究雑誌 60 (6): 183-185.
 鮫島和子, 鮫島淳一郎 1987. 原色図譜 エンレイソウ属植物. 北海道大学図書刊行会.

(長岡京市)

山口県におけるホンゴウソウの産地 (武内康義)

Yasuyoshi TAKEUCHI: On *Sciaphila japonica* in Yamaguchi Prefecture

1972年刊行の山口県植物誌には、ホンゴウソウ科の植物は収蔵されていない。1972年10月18日長門峡を訪れた際、大谷淵付近の歩道、西岸の苔むした岩上に偶然にも開花結実したホンゴウソウ *Sciaphila japonica* Makino を見つけ採集した。1985年の同時期に再度、現地を訪れたが、以前生えていた場所は状況がかなり変わっており、ホンゴウソウを確認することはできなかった。

先日、山口県立山口博物館に山口県でのホンゴウソウ採集記録の有無を問い合わせたところ、1992年9月21日豊田町で、三宅貞敏

氏採集 (標本番号 73374) と1993年10月4日秋芳町で、松井茂生氏採集 (標本番号 75705) の標本がそれぞれ同博物館に収蔵されていることが判明した。両氏の了解を得てここに長門峡の標本をふくめ所在を明記し、報告しておく。長門峡での採集標本は山口県立山口博物館 (標本番号 82182) および東北大学大学院理学研究科生物学教室植物標本室 (TUS 229040) に収蔵した。本報告を書くに当たり、山口県立山口博物館学芸員の嶋村拓実氏のお手を煩わせたことをここに附記し御礼申し上げる。

(長岡京市)

キクザキイチゲの青森県産 1 新品種, クルマザキキクザキイチゲ (門田裕一)

Yuichi KADOTA: A New Form of *Anemone pseudoaltaica* H.Hara from Aomori, Northern Japan

青森県産のキクザキイチゲの1新品種を報告する。この新品種はまず、すべての雄蕊ががく片状に弁化して八重咲きになっており、さらにはがく片の基部が緑色になっていることが特徴の一つである (Fig. 1)。Fig. 2の左の個体では、茎のなかほどに3枚の茎葉が輪生し、さらにそのうえに多数の茎葉が同じく輪生し、茎の先端に八重咲きの花がついているかのように見える。しかし、この2段目のいわば輪生する過剰な茎葉のように見えるものは3枚ではなく多数あり、またがく片のように部分的に白色を帯びたものもある。これらは茎葉ではなく、一部に緑化あるいは小型の普

通葉化が起こった一つの花であり、その中心から花柄を伸ばして八重咲きの花を咲かせているのである。この現象は、心皮を形成することで発達を止めた花の成長点なんらかの刺激で活性化されて、さらに花柄を伸ばして花を咲かせる貫生 (proliferation; 例えば、中村信一, 週刊朝日百科植物の世界第97号, pp. 9-30-9-32, 1996) の一例とみなすことができる。貫生には頂生のもので腋生のものに区別されるが、この場合は頂生であり、先端貫生 (diaphysis) と呼ばれる。1段目の花に小型の複葉がみられるのはがく片が普通葉に戻った先祖返り現象である。Fig. 2の右の個体は



Fig. 1. *Anemone pseudoaltaica* H.Hara f. *prolifera* Kadota. Photos taken at Ohata-machi, Shimokita-gun, Aomori Pref., Japan by Ms. M. Saito on 13 May 1995.

図 1. クルマザキキクザキイチゲの開花の様子 (青森県下北郡大畑町, 1995 年 5 月 13 日橋本弘氏撮影)。

単なる八重咲きの花を咲かせているように見えるが、2 段目の花がほとんど無柄であるためにそのように見えるだけで、左の個体と本質的な差はない。この個体は貫生が 1 回起こったいわば 2 段咲きのものであるが、発見者である齋藤益子氏によると、貫生が 2 回起こった 3 段咲きの個体も見られたこともあるという。イチリンソウ属は花にしばしば貫生がみられる植物群として知られているが、キクザキイチゲでの貫生の例は報告されていない。しかも、産地では群落をなして生育しているということである。そこで本植物を新品種 *Anemone pseudoaltaica* H. Hara f. *prolifera* Kadota として記載しておくことにする。和名は開花の様子にちなみ、クルマザキキクザキイチゲ (車咲き菊咲一華) としたい。なお、こ

れらの個体では小葉の切れ込みが浅く、関東や中部地方のものとはかなり異なった印象を与える。しかし、キクザキイチゲは分布域の南部 (兵庫県) から北方にいくにしたがって小葉の切れ込みは次第に浅くなる傾向があり、この個体もこの変異の傾向に沿っている。

発見者の齋藤益子氏によると、クルマザキキクザキイチゲはヒバとブナを主体とする針広混交林の林床に生育しており、周囲には典型的なキクザキイチゲは見当たらないとのことである。同じく同氏によると、この山域にはオサバグサやオオサクラソウなどが自生しているものの、盗掘が多いため、それらの個体数は年々減少しているという。このクルマザキキクザキイチゲも園芸的な価値があると思われるため、盗掘の被害に晒される恐れがある。このため、ここでは「青森県下北郡大畑町」と産地を特定できないようなかたちで報告することをお断りしておきたい。

本稿をまとめるのにあたり、金井弘夫博士には貴重なご助言をいただいた。また、齋藤益子氏には生品と写真をお送りいただき、大畑町の坂井 隆氏には齋藤氏との仲介の労をとっていただき、橋本 弘氏には生育地での写真を提供していただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

Aemone pseudoaltaica H.Hara in J. Jpn. Bot. **15**: 767 (1939).

f. *prolifera* Kadota, f. nov.

A typo proliferatione, flore primo ferenti sepalis albis et viridivariegatis vel foliis parvis, flore secundo ferenti sepalis albis basi viridis et carpellis sterilibus differt.

TYPE: JAPAN; Honshu, Aomori Pref., Shimokita-gun, Ohata-machi alt. 570-600 m [cult. at Ohata-machi], 1 May, 1998, M. Saito s.n. (TNS 663208-holotype; Fig. 2).

Japanese name: Kurumazaki-kikuzakichige (nov.). (国立科学博物館植物研究部)

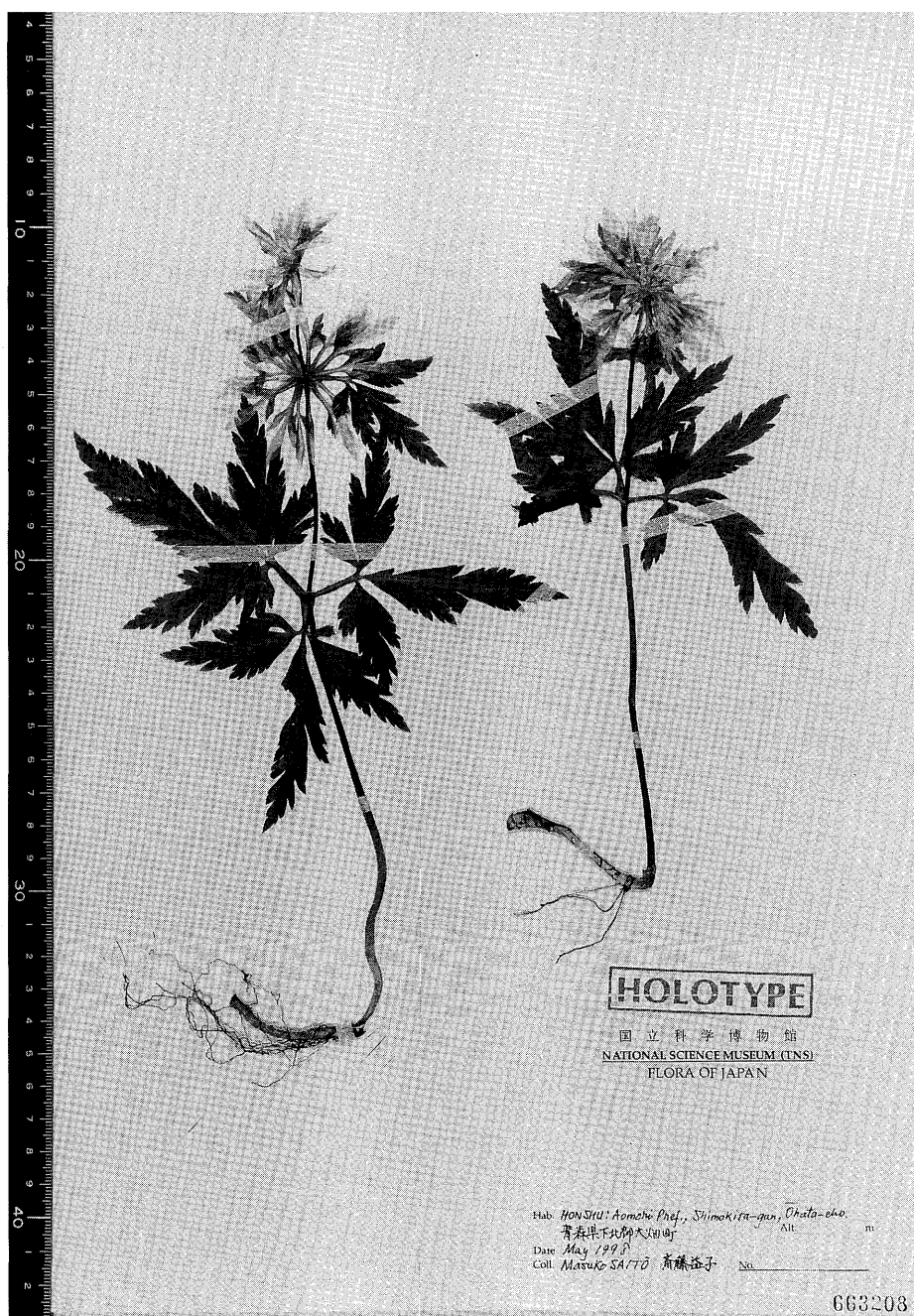


Fig. 2. Holotype of *Anemone pseudoaltaica* H.Hara f. *prolifera* Kadota, f. nov.

図2. クルマザキキクザキイチゲ (ホロタイプ).